

The Master Therion

Liber Librae

Sub Figura XXX

Book 30

A.A.: B級刊行物

均 衡 の 書

訳 Hieros Phoenix

0. 汝、わが古き団に志願したる者よ! まず最初に均衡こそが「作業」の真の基盤であることを学べ。もし汝自身が確固たる基盤を持たざれば、「自然」の諸力を直接求めるにおいて何処に立てようか?
1. されば知れ。「物質」の「闇」と相克する諸力のただ中に人が生まれてくるからには、人の最初の苦闘は諸力の和解を通じて「光」を求めることにある。
2. かくして、この世の試練と苦難を経てきた汝は、それらを喜ぶべし。なぜならば、その中にこそ「力」があり、それらによりてこそ「光」に通じる径が開かれるのだから。
3. 他に為すべきことがあるうか、おお人よ、汝の命は永遠の中にありて一日に過ぎず、時の大海にあっては一滴でしかない。もし、汝の試練が少なければ、いかにして汝は地のクズから清められようか? いまこそ高次の生が危機と艱難に苦しめられる時なり。過去の賢人や神官達においても同様ではなかったか? 彼らは迫害され、汚名をきせられ苛まれてきたが、それゆえにこそこの試練を経て「栄光」を増してきたのである。
4. ゆえに秘儀参入者よ、喜ぶべし。汝の試練が大きければ、汝の「勝利」も大きくなる。人が汝を罵り、汝に偽りの責めを負わせた時、「師」は「祝福あれ!」とは云わないであろう?
5. されど、おお志願者よ、汝の勝利を「虚栄」としてはならない。「知識」が増すとともに「叡智」も増すべきであるがゆえに。なにも知らぬ者は多くを知っていると思ひ込む。しかし多くを知る者は、己の無知を学んでいるのだ。自惚れた賢者など見たことがあるうか? そんな者よりも愚者の方がまだ望みはある

だろう。

6. 他人を早急に責めるなかれ。汝がその立場になれば誘惑に屈しないと誰が云えようか? たとえ屈しないとしても、汝よりも弱きものを軽蔑するのは正しきことか?
7. ゆえに汝、魔術の才を求める者よ、汝の魂の堅忍不拔たるを確固とせよ。汝の弱さを褒め称えることで「弱さ」は汝にたいして支配力を及ぼすのだ。汝の「自己」の前で身を慎め、されど人も霊も恐れるなかれ。恐怖は失敗であり、その先駆けなり。勇気は美德の始まりなり。
8. ゆえに霊を恐れるなかれ、彼らに対して確固たる態度を示し、また礼を失するなかれ。なぜならば汝には彼らを軽蔑する権利も罵る権利もないからだ。そは汝を過ちへと導くものなれば。彼らに命令を発し、追儼せよ。必要とあらば偉大なる名前で彼らを呪え。されど嘲ったり、罵ったりしてはならぬ。そは汝を過ちへと導くこと確実であるからだ。
9. 人は受け継いだ運命の枠内で自らに影響を及ぼすものなり。人は人類の一部である。彼の行動は彼が彼自身と呼ぶものに影響を及ぼすのみにあらず、宇宙全体にも影響を及ぼす。
10. 肉体は崇拜しても無視してもならない。肉体は汝と外の物質世界とを結ぶ仮の繋がりである。ゆえに心を「均衡」に保ち、物質界の出来事に心乱されることなかれ。動物的熱情に強くあれ、そして制御せよ。感情と理性を調教せよ。高き志を養うのだ。
11. 報酬のためでもなく、感謝のためでもなく、同情からでもなく、自身のために善をなせ。もし汝が寛容たれば、長く感謝の言葉を聞くには耐え得じ。
12. 均衡なき力は邪悪なり。均衡なき峻厳は残虐にして抑圧なり。また均衡なき慈愛も「邪悪」を許す弱さに他ならず。情熱的であらんことを、理性的であらんことを、汝自身になるがよい。
13. 真の儀式は行動であり、言葉であるだけでなく「志」である。
14. この地球は宇宙の中の一原子であり、汝自身もその原子上の一原子に過ぎな

いことを肝に銘じよ。また、たとえ汝がこの地球の神になり得たとしても、汝は地球上を這い回るのみであり、多数の原子の中の一原子でしかないのである。

15. それでも最大限の自尊心を抱き、最後まで罪を犯すことなかれ。許されざる罪は、その真理を知りつつも敢えてそれを拒否し、知識が汝の偏見につけ込むがゆえに知識を恐れることである。
16. 魔術的な力を得るためには、思考を統御することを学ぶべし。望む目的に調和する着想のみを認識し、沸き起こる全ての迷いや矛盾した「着想」を排除せよ。
17. 方向の定まった思念は目的達成への手段なり。ゆえに沈思黙考と瞑想の威力に注意を払うべし。物質的行動は単なる思念の外的表現に過ぎず、ゆえに「愚かなる思考は罪なり」といわれている。ゆえに思念は行動の開始点である。そして、もし偶然の思念が大いなる影響を生み出せるのであれば、方向の定まった思念に出来ないことがあるか？
18. ゆえに既に述べられたるが如く汝自身を諸力の均衡のうちに、「元素」の「十字」の中心に「確立」すべし。この「十字」の中心より「創造的言葉」が、明けゆく宇宙の誕生のうちに発せられるのである。
19. 汝はゆえにこう告げられたり。シルフの如く迅速にして快活たれ、されど軽率と気まぐれを避けよ。サラマンダーの如く旺盛にして強健たれ、されど短気と獐猛を避けよ。アンダインの如く柔軟にして慇懃たれ、されど怠惰と移り気を避けよ。ノームの如く勤勉にして辛抱強くあれ、されど野卑と貪欲を避けよ。
20. ゆえに汝、徐々に汝の魂の力を発達させ、元素の「霊達」に命令を下すに相応しい存在となれ。なぜなれば、もしノームに貪欲の手助けをさせるならば、最早ノームに命令を下しているのではなく、ノームが汝に命令を下すであろう。汝、山々や木々の純粋な創造物を悪用して自らの私腹を肥やし、黄金への渴望を満たそうとするや？ 汝、「生ける炎」の霊達を汚して汝の恩讐を晴らそうとするや？ 汝、「水」の「魂」の純潔を汚して自らの放蕩の欲望を満たそうとするや？ 汝、「宵」の「そよ風」の「霊達」に強いて自らの愚考と気まぐれに奉仕させるや？ そのような欲望で汝が引きつけたるものは、「強さ」ではなく「弱さ」

のみであり、「弱さ」が汝に支配力を持つことを肝に銘じよ。

21. 真の宗教に分派なし。ゆえに汝、他人の神の名前を罵るなかれ。他人はその名前にて自らの神を知るものなればなり。もし汝ユピテルの名を罵れば、それ即ち IHVH を罵るものなり。もしオシリスを罵るならば、汝は IShVH を罵ることとなろう。求めよ、されば与えられん! 捜せ、されば見出されん! 門を叩け、されば開かれん!